

来年度の取組の方向性

来年度の取組の方向性

今年度は、四万十川流域でのツル類の越冬はありませんでしたが、来年度以降、ツル類が安定して越冬できるように、ツル類の越冬環境づくりを継続するとともに、地域内外の人や組織と連携を図りながら、ツル類を活かした地域・人づくりの取組を推進します。

ツル類の安定した越冬環境づくり

- ねぐら環境を整備するため、冬期の田んぼへの水張りを継続するとともに、ツル類の生息ポテンシャルマップを踏まえて新たな実施場所や河川でのねぐらの適性を高めるための検討を行います。
- 中筋川の自然再生事業箇所、代替ねぐら環境の整備箇所などにデコイを設置します。
- 田んぼに二番穂を残す、もしくは荒起こし状態を維持するなどして、採食環境を増やすため、ツル類の生息ポテンシャルマップやねぐら整備箇所に基づいた地域の農業者等へヒアリングや意見交換会に向け、情報収集や調整を開始します。
- 地域住民とともにツルの越冬環境づくりを通じた江ノ村地区のあり方を検討するための調整を開始します。
- 耕作放棄地の湿地・草地型ビオトープとしての利用を検討するため、ツル類の生息ポテンシャルマップに基づいて、対象地の分布状況を確認します。
- ツル類への配慮を促すために、啓発看板の設置や立入制限区域の検討、四万十市や周辺自治体等と連携した「四万十ツルの観察マナー」の周知を行います。
- 四万十市におけるツル類の見守り体制の構築に向けて、試行を継続します。

ツル類を活かした地域・人づくり

- ツル類を活かした農業振興に向けて、付加価値化の方向性や取組の共感を得るためのストーリー、認証制度の在り方を検討するため、引き続き関係各所から情報収集をします。
- ツル類を活かした教育旅行プログラムやツル類をモチーフとした物産品の開発を、四万十川流域の自然や文化等を踏まえ、関係各所と相談しながら検討します。
- 四万十川流域の「つるの里」としての認知度を高めるために、四万十市内外の施設やイベントにおいて、パネル展示や写真展示を行うとともに、新たな広報ツールや既存の動画の活用を検討します。
- ツルの自然体験学習会を継続するとともに、市内の新たな学校に向けてツル学習の展開を検討します。
- 幡多農業高校との連携を継続し、大学等新たな教育・研究機関との連携・協働を模索します。
- 各取組で地域内外の人々や関係者が楽しみつつ、自分事として参加できるしかけを検討します。